

観光人類学から子どもの科学文化を見つめてみる

Alternative Feature of Kid's Culture related to Science: discovered by some Concepts in the "Anthropology of Tourism"

大辻 永

Hisashi OTSUJI

国立大学法人茨城大学教育学部理科教育研究室

Department of Science Education, College of Education, Ibaraki University.

[要旨] 発表者は、子どもの有り様とその環境のうち科学に関係する部分を「子どもの科学文化」として対象化している。観光人類学におけるいくつかの概念を通してこれを見つめてみると、これまで気づけなかった特徴が浮き彫りにされてくる。

[キーワード] 観光人類学 子ども 科学 文化 科学の祭典

はじめに

「かがく」についての子どもの見方は、どのように形成されていくのであろうか？ また、どのようなイメージとして「科学」は定着していくのであろうか？ 発表者による一連の研究主題は、現在「子どもの科学文化」として、「科学教育の文化研究」運動

(Culture Studies in Science Education) に居場所を見いだしている。これらの問いへのアプローチは、現在の子どもとその周辺を正視するのも一つの方法であるし、自分史からアプローチする方法もある(大辻 2003)。

科学教育を Border crossing としてみる見方や(Aikenhead 1996) 異文化体験としてみる見方がある(大辻・赤堀 1993 など)。異文化体験としてみるのであれば、文化人類学の一領域である観光人類学という分野に目を転じ、そこで議論されている諸概念に照らし合わせて、科学教育という営みを見つめ直してみる作業も、一つのアプローチとして成り立つであろう。ここでは、観光人類学のいくつかの概念を借りて、我が国における、科学に関連した子どもの諸現象を眺めてみる。

観光人類学でのいくつかの概念

紙面の都合上詳細は省くが、観光人類学には表 1 のような概念がある(Graburn 1976; 江淵 2000:198-199)。これらを下敷きにして、あるいは眼鏡として、科学教育に関する諸現象を見つめてみる。

青少年のための科学の祭典

見つめる対象の一つとして、1992 年より始まった「青少年のための科学の祭典」をとりあげる(Otsuji, et al. 2005a; 品田 2002)。この運動はすでに全国に展開し、総来場者数は 350 万人を超え(表 2)、我が国における PUS 活動のうち最大の運動といえるであろう。

表 1 観光人類学でのいくつかの概念

Fine art	芸術のための芸術(美術)
Folk art	一般庶民が生活のために造りだした芸術的作品(民芸)
Ethnic art	「仲間内」で使用し鑑賞するための手作りの作品(Folk art)がエスニック・アイデンティティを維持し外部に向かって表明するための表徴として重要な意味を持つ場合。民俗文化的・民族的真正性をもつ
Tourist art/Airport art	仲間内で評価されなくても「よそ者」を喜ばせ現金収入とするために、よそ者の好みに合わせて作られる。多少自嘲・軽蔑が込められている。

表 2 「青少年のための科学の祭典」来場者数 [人]

年度	来場者	累積
1992	15,698	15,698
1993	42,334	58,032
1994	62,716	120,748
1995	101,042	221,790
1996	220,218	442,008
1997	233,837	675,845
1998	334,146	1,009,991
1999	304,524	1,314,515
2000	445,375	1,759,890
2001	487,625	2,247,515
2002	430,267	2,677,782
2003	454,676	3,132,458
2004	466,623	3,599,081

クリフォードによる「芸術＝文化システム」

クリフォードは、authentic - inauthentic と masterpiece - artifact という 2つの軸で文化の

芸術性について図式化している (Clifford 1988 図1)。当日の発表では、この図に「青少年のための科学の祭典」等を載せ、論じる。

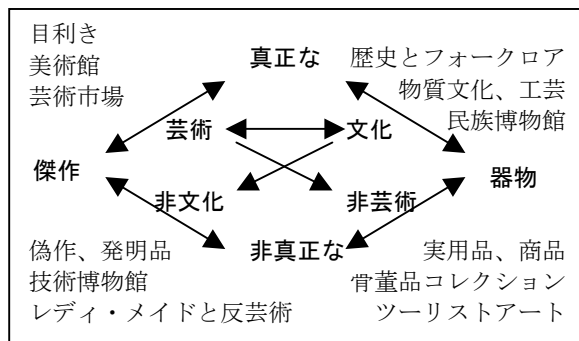


図1 芸術=文化システム (Clifford 1988 より 一部スペースの都合により省略)

おわりに

何気なく見ていた現象も、何かしらの理論的枠組みが与えられると、それまでとは違った見方が可能になる。本発表は、観光人類学という別領域のいくつかの概念を通してみると、科学に関係する子どもの文化現象 (具体的には「青少年のための科学の祭典」など) が、これまでとは違った見方ができるようになる、という指摘である。新しい見方を加えることによって、説明範囲が拡大したり、腑に落ちる解釈が少しでも生じれば、そうすることの価値がある。観光人類学のいくつかの概念を下敷きにした今回の提案は、子どもの科学文化の探究に、刺激あるアプローチではなかろうか。

謝辞

本研究は平成 16-18 年度文部科学省科学研究費補助金 (課題番号: 16680027) を受けています。また、日本科学技術振興財団・科学技術館 (JSF) から資料をいただきました。記して感謝申し上げます。

参考

Aikenhead, G.S., Science Education: Border Crossing into the Subculture of Science, *Studies in Science Education*, 27, 1-52, 1996.
 Clifford, J., 1988, *The Predicament of Culture*, Harvard Press. 『文化の窮状: 二十世紀の民族誌、文学、芸術』人文書院。
 江淵一公, 『文化人類学: 文化的実践知の探究』放送大学, 2000/2004.
 Graburn, N.H.H.(ed.), *Ethnic and Tourist Arts: Cultural Experiences from the Fourth World*, University of California Press, 1976.

Lincoln, A., Gettysburg Address, 1863.
 Ogawa, M., The Japanese View of Science in their Elementary Science Education Program. In Calhoun, K., Panwar, R. & Shrum, S. (Eds.), *International Organization for Science and Technology Education 8th symposium proceedings, Vol. 2: Policy.*, University of Alberta, 175-179, 1997.
 Ogawa, M., A Cultural History of Science Education in Japan: An Epic Description. In Cobern, W.W. (Ed.), *Socio-Cultural Perspectives on Science Education: An International Dialogue*, Kluwer Academic Publishers, 1998.
 大辻永・赤堀侃司, 英語資料を用いた科学教育の実践とその背景, 日本科学教育学会『研究会研究報告』8(3), 13-18, 1993.
 大辻永, 切り口としての自分史, 日本科学教育学会『年会論文集 27』407-408, 2003.
 Otsuji, H., Children Sans Frontiers: micro culture and macro culture, *Culture Studies in Science Education, Kobe Meeting 2004*, Kobe University, Jul.9-12, 2004.
 Otsuji, H., Approaching the Authenticity of Science and Science Education: Using concepts in the Anthropology of Tourism, *Culture Studies in Science Education, Hawaii Meeting 2004 (The Role of Indigenous Knowledge in Schools: Science and Mathematics in Pacific Island and Pacific Rim Nations)* University of Hawaii at Manoa, Oct.14-17, 2004.
 Otsuji, H., Tsuchiya, Y. & Seki, Y., Mapping New Trends of Japanese Science Education onto the frame of "Science of the people, by the people, for the people", *Korian Association for the Research of Science Education 2005 Winter, English Session*, Seoul National University, Feb.18, 2005a.
 Otsuji, H., Tsuchiya, Y. & Seki, Y., Kid's Culture related to Science: The Effects of Capsule Science Toy on Gr.3, 6 and 9, *ASERA 2005*, Waikato University, Hamilton, New Zealand, Jul.9, 2005b.
 Smith, V.L.(ed.), *Hosts and Guests: The Anthropology of Tourism*, University of Pennsylvania Press, 1977/1989.
 品田和子, 科学の祭典は何をもたらしたのか, 『理科の教育』51(8), 18-20, 2002.
 ※この紙面 (年会論文集) ではスペースの都合上触れられないが、発表時には引用文献になるものもここに示した。